

岩手労働局発表
平成28年1月18日

【照会先】
岩手労働局労働基準部健康安全課
課長 安倍 賢
主任安全専門官 村井 雄亮
(電話) 019-604-3007

平成27年(12月まで)の労働災害発生状況(速報値)を公表します。

～平成27年の労働災害による死傷者数は、前年同期比126人(9.4%)減少～

～同死亡者数は、前年同期比5人減少～

岩手労働局(局長 ^{くごたに としゆき}久古谷 敏行)は、平成27年(1～12月)の県内の労働災害による死傷者数(休業4日以上)及び死亡者数の状況を取りまとめました。

平成27年12月までの死傷者数(速報値)は1,220人で、前年同期比で126人(9.4%)の減少となり、平成26年までの5年連続の増加が減少に転じました。また、死亡者数(速報値)は19人となっており、前年同期比で5人の減少となっています。

平成27年の労働災害は前年より減少しているところですが、例年、冬季に入ると積雪、凍結による転倒災害、車両のスリップによる交通労働災害が多発することから、岩手労働局及び県内の各労働基準監督署では、「いわて年末年始無災害運動」(運動期間：27年12月1日～28年1月31日)において冬季特有災害(圧雪・凍結路面での転倒災害、スリップ等による交通労働災害等)等の防止対策の周知啓発(別添リーフレット参照)に努める等引き続き労働災害防止対策に積極的に取り組んでいくこととしています。

全業種(再掲)及び業種別等の発生状況は以下のとおりです。

1 死傷者数(休業4日以上) 【表1】

(1) 全業種合計

全業種合計の死傷者数は1,220人で、前年同期比で126人(9.4%)の減少となっています。

(2) 業種別の状況

前年同期比で増加した業種は、接客娯楽業 67 人（前年同期比 + 9 人、15.5%）、畜産水産業 53 人（同 + 3 人、6.0%）、鉱業 7 人（同 + 1 人、16.7%）となっています。

前年同期比で減少した業種は、建設業 253 人（前年同期比 - 22 人、- 8.0%）、農林業 56 人（同 - 18 人、- 24.3%）、商業 135 人（同 - 17 人、- 11.2%）、保健衛生業 83 人（同 - 12 人、- 12.6%）、製造業 286 人（同 - 14 人、- 4.7%）、運輸交通業 148 人（同 - 7 人、- 4.5%）、通信業 24 人（同 - 4 人、- 14.3%）となっています。

（3）事故の型別状況 【グラフ1・2】

全業種において、最も多い事故の型は「転倒」によるもので 263 人（21.6%）となっています。次いで、「墜落・転落」によるものが 248 人（20.3%）、「はさまれ・巻き込まれ」163 人（13.4%）の順となっています。

また、前年同期比で減少した事故の型は、「交通事故（道路）」69 人（- 28 人）、「切れ・こすれ」106 人（- 26 人）、「転倒」263 人（- 20 人）、「動作の反動・無理な動作」100 人（- 18 人）、「墜落・転落」248 人（- 11 人）、「飛来・落下」74 人（- 7 人）、「激突され」67 人（- 2 人）、「はさまれ・巻き込まれ」163 人（- 1 人）となっています。

2 死亡者数 【表1・2・3】

（1）全業種合計

全業種合計の死亡者数は 19 人で、前年同期比で 5 人減少となっています。

（2）業種別の状況

「建設業」が 7 人と最も多く、「林業」が 3 人、「製造業」及び「運輸交通業」が各 2 人、「商業」で 1 人などとなっています。

前年同期比では、「商業」で 3 人、「運輸交通業」で 2 人、「鉱業」及び「建設業」で各 1 人減少した一方、「林業」で 3 人増加しています。

（3）事故の型別状況

「墜落・転落」、「崩壊・倒壊」、「はさまれ・巻き込まれ」及び「交通事故」が各 3 人、「転倒」、「飛来・落下」、「激突され」、「高温の物との接触」及び「有害物等との接触」が各 1 人となっています。

前年同期比では、「墜落・転落」で 5 人、「激突され」及び「交通事故」で各 2 人、「激突」及び「感電」で各 1 人減少し、「転倒」、「崩壊・倒壊」、「高温の物との接触」及び「有害物等との接触」で各 1 人増加しています。

【表1】

平成27年1～12月

労働災害発生状況（休業4日以上之死傷者数）

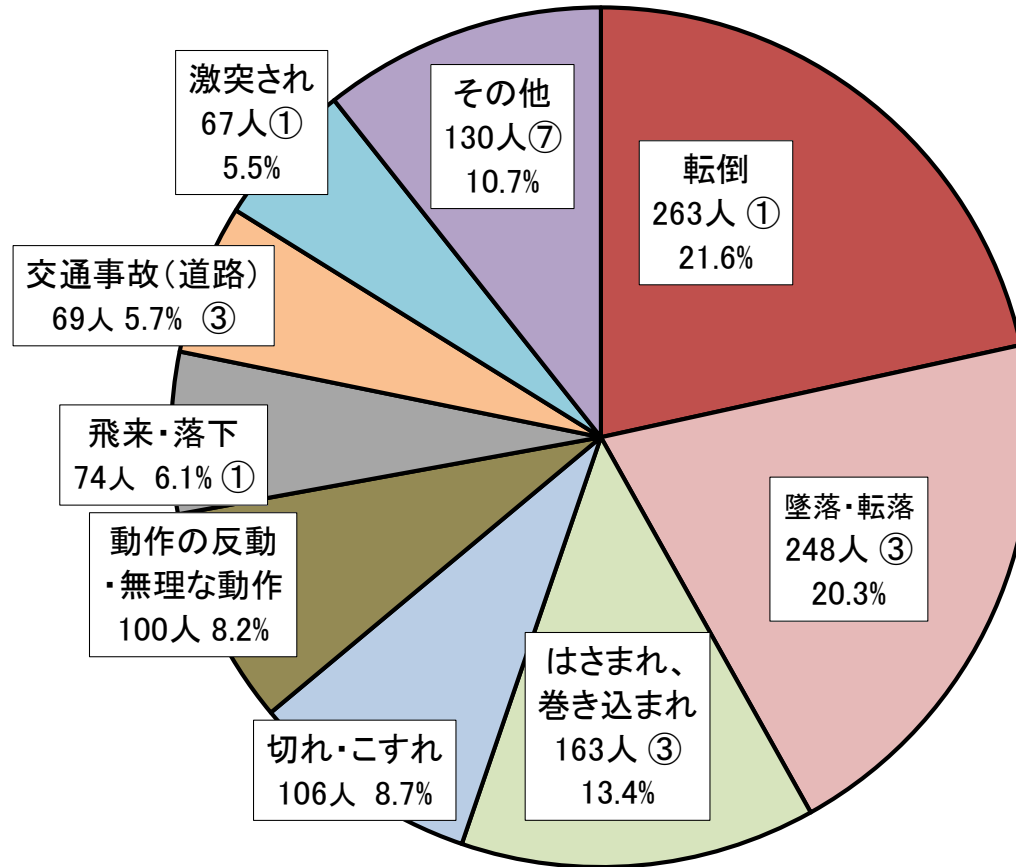
岩手労働局

業種	岩手局				盛岡署	宮古署	釜石署	花巻署	一関署	大船渡署	二戸署		
	27年	26年	増減数	増減率									
製造業	食料品	30 (2)	30	0	0.0%		8	6	1		11	4	
	上記以外の食料品	① 98 (1)	80 (2)	18	22.5%	43		1	① 23	14	9	8	
	繊維・衣服その他繊維製品	8	10	-2	-20.0%	3	1	1	2			1	
	木材・木製品、家具・装備品	40	45 (1)	-5	-11.1%	10	7	3	5	2	6	7	
	パルプ・紙、印刷・製本	4	10	-6	-60.0%	1			2	1			
	化学工業	13	14 (1)	-1	-7.1%	1		1	7	3	1		
	窯業土石製品	① 13	20	-7	-35.0%	1	1		3	5	① 1	2	
	鉄鋼業、非鉄金属	5	11	-6	-54.5%			2	3				
	金属製品	23	26	-3	-11.5%	2		2	12	5	1	1	
	一般機械器具	12	① 12 (1)	0	0.0%	3			8			1	
	電気機械器具	15	9	6	66.7%	2	2	3	7			1	
	輸送用機械製造	5	① 10	-5	-50.0%				4			1	
	電気・ガス	0	0	0									
	その他の製造業	20	23	-3	-13.0%	7	1		7	1		4	
小計	② 286 (3)	② 300 (5)	-14	-4.7%	73	20	19	① 84	31	① 29	30		
鉱業	7	① 6	1	16.7%	1		1	1	2	1	1		
建設業	土木工事	⑤ 85 (7)	④ 95 (5)	-10	-10.5%	① 14	① 13	① 9	① 17	8	11	① 13	
	建築工事	鉄骨・鉄筋家屋	23 (3)	① 26 (5)	-3	-11.5%	6	2	3	3	2	5	2
		木造家屋	① 58 (2)	① 69	-11	-15.9%	15	4	3	14	① 7	7	8
		その他の建築工事	① 57 (2)	44 (2)	13	29.5%	① 31	3		6	8	5	4
	その他の建設	30 (1)	② 41 (11)	-11	-26.8%	9	2		7	3	2	7	
小計	⑦ 253 (15)	⑧ 275 (23)	-22	-8.0%	② 75	① 24	① 15	① 47	① 28	30	① 34		
運輸交通業	道路貨物運送業	② 133 (10)	④ 131 (10)	2	1.5%	58	3	6	① 37	① 16	7	6	
その他の運輸交通業	15 (1)	24	-9	-37.5%	10			2	2	1			
貨物取扱	2	2	0	0.0%	1		1						
農林業	農業	3	8 (1)	-5	-62.5%	1			1	1			
	林業	③ 53	66	-13	-19.7%	① 22	5	2	2	12	2	② 8	
畜産水産業	畜産業	35	36	-1	-2.8%	8		4	12	3		8	
	水産業	18	① 14	4	28.6%		3	3			6	6	
商業	小売業	107 (12)	④ 113 (16)	-6	-5.3%	47	5	6	32	4	5	8	
	その他の商業	① 28 (3)	39	-11	-28.2%	10	2	2	① 12	1		1	
通信業	24 (11)	28 (13)	-4	-14.3%	12	1	1	5	1	1	3		
保健衛生業	社会福祉施設	60 (3)	77 (6)	-17	-22.1%	19	4	4	15	11	6	1	
	その他の保健衛生業	23	18	5	27.8%	15		1	5	1		1	
接客娯楽業	旅館業	16 (1)	14 (2)	2	14.3%	5	2	1	6	1		1	
	飲食店	30	31 (1)	-1	-3.2%	20	2		3	3		2	
	その他の接客娯楽業	① 21	13 (1)	8	61.5%	13	① 1	2	2		2	1	
その他	ビルメンテナンス業	① 30	① 35 (4)	-5	-14.3%	16	2	① 3	7			2	
	その他（上記以外の業種）	② 76 (10)	③ 116 (15)	-40	-34.5%	① 26	8	5	① 18	5	4	10	
合計	⑨ 1,220 (69)	⑩ 1,346 (97)	-126	-9.4%	④ 432	⑥ 82	③ 76	⑤ 291	② 122	① 94	③ 123		
(注) 平成27年12月末の速報値である。				前年同期	⑧ 438	⑥ 124	③ 79	④ 317	① 162	② 102	124		
○数字は死者数（内数）、（ ）数字は交通労働災害（内数）である。				増減数	-6	-42	-3	-26	-40	-8	-1		
				増減率	-1.4%	-33.9%	-3.8%	-8.2%	-24.7%	-7.8%	-0.8%		

【グラフ1】

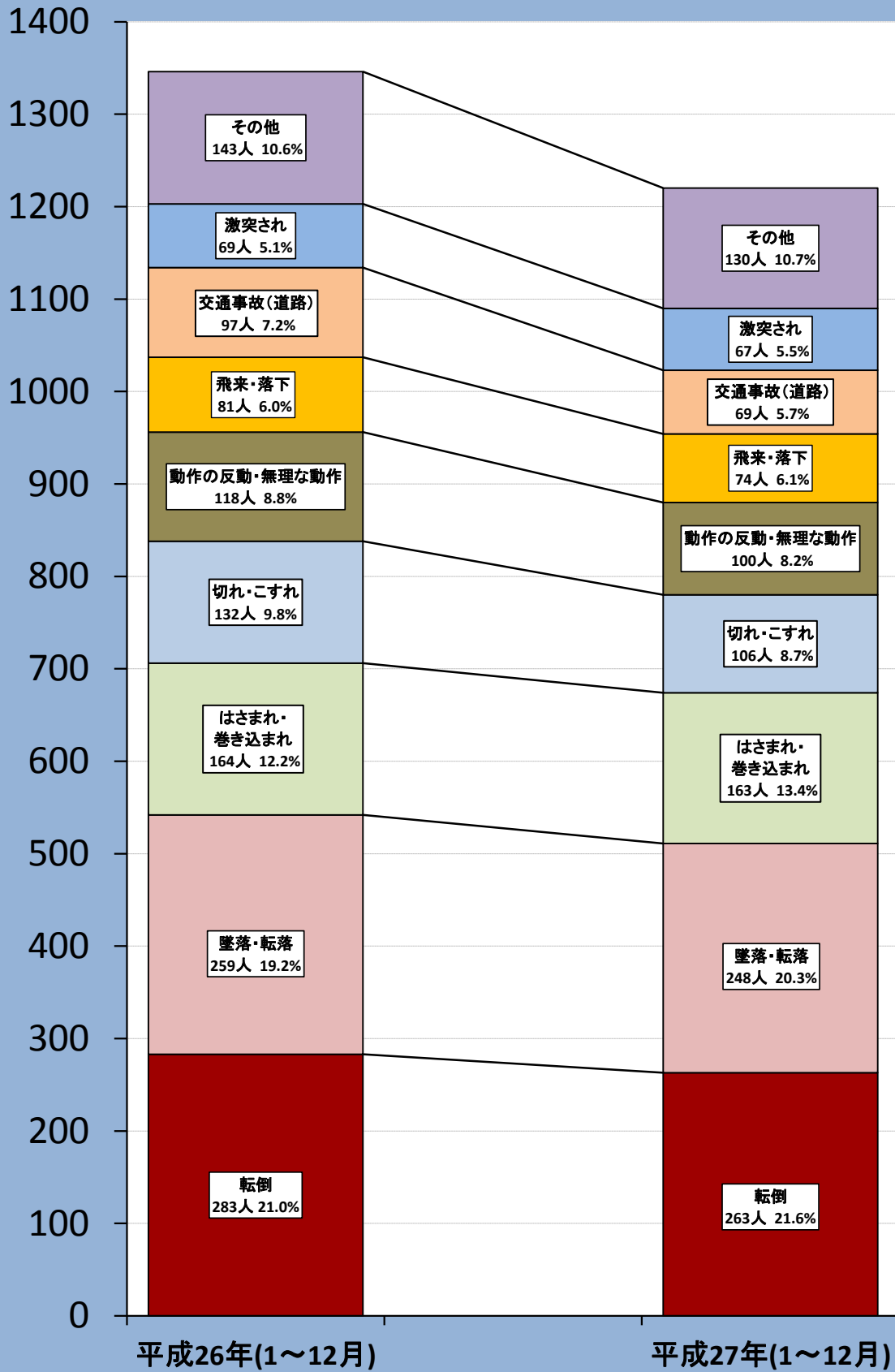
平成27年 1～12月 労働災害発生状況（事故の型別）

岩手労働局



平成27年12月末の速報値である。
○数字は死亡者数(内数)である。

事故の型別労働災害発生状況



【表2】

平成27年 死亡災害発生状況 (12月31日 現在)

岩手労働局

番号	署別	業種	発生日	曜日	性別	年齢 (経験期間)	事故の型	起因物	災害発生の概要	発注者
1	花巻	商業 (その他の卸売業)	1月	水	女	40歳代 (1年以上 10年未満)	交通事故 (道路)	トラック	社用車で東北自動車道を走行中、スリップ事故により中央分離帯に衝突し、追い越し車線で停車していたところに後続の大型トラックが追突した。	
2	一関	建設業 (木造家屋建築工事業)	1月	土	男	50歳代 (30年以上 40年未満)	その他	その他の起因物	工事現場で、木材加工中、携帯用丸のこ盤で左示指を切断し療養していたが、32日後に破傷風のため死亡した。	民間
3	一関	運輸交通業 (一般貨物自動車運送業)	2月	金	男	60歳代 (1年未満)	交通事故 (道路)	乗用車、バス、 バイク	社用車で新東名高速道路を走行中トラックに追突した。	
4	釜石	建設業 (港湾海岸工事業)	2月	日	男	40歳代 (10年以上 20年未満)	有害物等 との接触	異常環境等	潜水し水深約18mで捨石を均す作業中、潜水から約10分後に異常を訴え水面に浮上したが、塞栓症により死亡した。	国
5	盛岡	建設業 (河川土木工事業)	3月	水	男	60歳代 (30年以上 40年未満)	崩壊、倒壊	その他の仮設物、建築 物、構築物等	現場事務所前の除雪作業中、プレハブの資材小屋(3.5×1.8×2.5m)が突風で倒れ、下敷きになった。	地方公
6	宮古	建設業 (トンネル建設工事業)	4月	水	男	60歳代 (30年以上 40年未満)	崩壊、倒壊	地山、岩石	トンネル切羽において、火薬の装填作業中、肌落ちが発生し、落下した雷管を回収するため切羽に近づいたところ、岩盤が大規模に崩落し、下敷きになった。	国
7	花巻	製造業 (その他の食料品製造業)	4月	土	男	60歳代 (1年未満)	転倒	通路	キャベツの芯取り作業中に転倒し、床に頭部を打ち頭蓋骨骨折で入院、5日後に死亡した。	
8	花巻	運輸交通業 (一般貨物自動車運送業)	5月	金	男	60歳代 (20年以上 30年未満)	交通事故 (道路)	トラック	花巻市の事業場所属のトラックが国道を走行中センターラインをはみ出し、八戸市の事業場所属のトラックと正面衝突し、双方の運転手が死亡した。	
9	花巻	その他 (その他の事業)	5月	金	女	30歳代 (1年以上 10年未満)	その他	起因物なし	水道の検針業務のため、加害者の自宅に赴いたところ、加害者自宅内に引き込まれ絞殺された。	
10	宮古	接客娯楽業 (その他の接客娯楽業 —その他)	6月	金	男	30歳代 (10年以上 20年未満)	高温・低温の 物との接触	高温・低温環境	海外研修中、40度以上の高温環境下で熱中症により、死亡した。	
11	花巻	建設業 (その他の土木工事業)	6月	月	男	60歳代 (1年以上 10年未満)	激突され	立木等	杉の木(胸高直径38cm、高さ15m)の伐倒方向を制御するために木材グラップル機のかみ装置を地上4.4mのところに添えながらチェーンソーで伐木したところ、切断部が暴れ、伐木に激突された。	民間

番号	署別	業種	発生日	曜日	性別	年齢 (経験期間)	事故の型	起因物	災害発生の概要	発注者
12	大船渡	製造業 (セメント・同製品製造業)	8月	金	男	50歳代 (1年未満)	はさまれ、 巻き込まれ	トラック	建設工事現場においてミキサー車を誘導し、停車させた後に体調不良となり、ミキサー車前方の日陰に座り込んでいたところ、運転手が被災者に気付かずに発車したため、当該ミキサー車に轢かれた。	
13	二戸	農林業 (木材伐出業)	8月	火	男	60歳代 (40年以上 50年未満)	飛来、落下	立木等	杉の木(胸高直径23cm、高さ13m)をチェーンソーで伐倒した際、引っ掛かっていた松の枯れ枝(長さ3m)が被災者の頭部に落下した。	
14	盛岡	その他 (その他の事業)	9月	土	男	60歳代 (1年未満)	墜落、転落	階段、棧橋	見回り中に階段で転落し、踊り場で倒れているのを発見され病院に搬送されたが、同日脳挫傷により死亡した。	
15	二戸	建設業 (道路建設工事業)	9月	水	男	60歳代 (1年以上 10年未満)	はさまれ、 巻き込まれ	掘削用機械	碎石の敷均し作業中、ドラグショベルを後進させたところ、後方で作業していた被災者を轢いた。	地方公
16	釜石	清掃・と畜業 (ビルメンテナンス業)	9月	水	男	40歳代 (1年以上 10年未満)	はさまれ、 巻き込まれ	乗用車、バス、 バイク	病院敷地内の道路上でマンホール蓋ののぞき窓から流量計の検針をしていた際、バスに轢かれた。10月10日、脳挫傷で死亡した。	
17	盛岡	農林業 (木材伐出業)	10月	土	男	50歳代 (10年以上 20年未満)	墜落、転落	伐木等機械	木材を集材車に積み込むため、グラップルで木材をつかみ上げ旋回させたところ、検材中の被災者が木材を抱きかかえたまま木材とともに空中を旋回した。グラップルの運転者が気付いて旋回を止めたところ、地面に落下した。	
18	二戸	農林業 (木材伐出業)	11月	土	男	60歳代 (1年以上 10年未満)	崩壊、倒壊	立木等	民有林の間伐作業現場にて、チェーンソーで伐倒作業をしていた被災者が、かかり木に他の立木を浴びせ倒したところ、さらにかかり木となり、後でかかり木となった木(胸高直径25cm、樹高25mの赤松)が被災者に倒れ、下敷きとなった。	
19	盛岡	建設業 (建築設備工事業)	12月	金	男	50歳代 (30年以上 40年未満)	墜落、転落	屋根、はり、もや、 けた、合掌	屋根上の雪止め設置工事で、一般住宅の屋根(2階建て、高さ5.75m)に梯子を立てかけて登ったところ、墜落し、脳挫傷により死亡した。	民間

【表3】

平成27年

死亡災害発生状況（事故の型別等）

12月31日 現在

業種別	製造業 2人 (2人)	鉱業 0人 (1人)	建設業 7人 (8人)	運輸 交通業 2人 (4人)	林業 3人 (0人)	商業 1人 (4人)	左記 以外 4人 (5人)	19人 (前年同期24人)
	監督署別	盛岡 4人 (8人)	宮古 2人 (6人)	釜石 2人 (3人)	花巻 5人 (4人)	一関 2人 (1人)	大船渡 1人 (2人)	
事故の型別	墜落・ 転落 3人 (8人)	転倒 1人 (0人)	飛来・ 落下 1人 (1人)	崩壊・ 倒壊 3人 (2人)	激突 され 1人 (3人)	はさまれ・ 巻き込まれ 3人 (3人)	切れ・ こすれ 0人 (0人)	
	おぼれ 0人 (0人)	高温の物 との接触 1人 (0人)	激突 0人 (1人)	感電 0人 (1人)	有害物等 との接触 1人 (0人)	交通事故 3人 (5人)	その他 2人 (0人)	

注：（ ）内は前年同期

事業場構内（屋外）、駐車場での
転倒災害が多発しています！

積雪・凍結路面でのスリップ事故が
重篤な災害の原因となっています！



転倒災害 & 交通労働災害を 防止しよう！！



©わんこきょうだい

積雪・凍結に注意！！

冬季間は、積雪・凍結などによる転倒災害、交通労働災害が多く発生していることから、これらの災害の防止に取り組みましょう。

岩手労働局・労働基準監督署

転倒災害防止のポイント

天気予報を確認する

大雪、冷え込み等が予想される場合等には、予め周知し、早めの対策を実施しましょう。



駐車場、通路等の除雪・融雪等を行う

駐車場内、駐車場から職場までの通路等、凍結しやすい場所は、除雪や融雪剤の散布を行いましょう。また、建物の出入口では転倒防止用マットを敷き、夜間は照明設備を設けて明るさ（照度）を確保しましょう。

履物は滑りにくいものを着用する

雪道を安全に歩くには履物選びが大切です。履物は、滑り止め材入り、ピン・金具付き・溝の深いもの等、防滑性（靴底が滑りにくいこと）に優れたものを着用しましょう。また、足のサイズに合った履物を選びましょう。



時間に余裕をもった行動を行う

悪天候により道路が混雑する場合、交通機関に遅れが生じる場合は、時間に余裕をもって移動するようにし、落ち着いて行動をするように心がけましょう。屋外では、小さな歩幅で靴の裏全体を付け、「急がず、ゆっくり」歩くようにしましょう。また、ポケットに手を入れたり、荷物などで両手がふさがっている時は、反射的に身を守れないため、手袋の着用、両手をふさがない工夫・作業方法の選択をしましょう。

転倒災害防止のための教育を行う

職場内の労働者が転倒の危険を感じた場所の情報を収集し、危険マップの作成、作業に適した履物、雪道や凍った路面上での歩き方等、安全教育を行いましょう。

※ 厚生労働省では転倒災害の現状からその対策まで、事業場での取り組みに役立つ情報を提供しています。

<厚生労働省 ホームページ> 「STOP! 転倒災害プロジェクト 2015」で検索

交通労働災害防止のポイント

積雪・凍結路面でのスリップは、路外逸脱による道路下や河川への転落、対向車線へのはみ出しによる対向車との正面衝突など、**重大な事故**につながりやすく**大変危険**です。

冬季は他の季節よりも**時間に余裕をもった運転開始や終了、走行経路**についての**走行計画**を作成しましょう。

運転者は**スリップを防止**するため、

- ・路面状況を把握し、適した速度（速度を控え目）で走行する
- ・カーブの手前で十分に減速する
- ・「急」のつく操作（急ブレーキ、急ハンドル、急加速）をしない

などに努めることが大切です。

また、走行中スリップしたことにより驚いて慌てて急ブレーキをかけたため、さらに大きくスリップするケースも多いので、**冷静かつ的確な操作**が求められます。

その他、①対向車等からの**視認性向上**のため、**早朝、夕方**など**早めのライト点灯**を行う、②交通事故発生情報、交通事故の危険を感じた事例（ヒヤリ・ハット事例）等に基づき、**交通安全情報マップ**を作成し、**配布・掲示**などを行う、③あわてず、あせらず、**慎重な運転や行動**をとるよう**定期的に安全教育、安全運転訓練**を行うなども重要です。

積雪がない道路では
ブラックアイスバーン
に注意しましょう！

※ 交通労働災害について、詳しくは以下のホームページをご覧ください。

- ・交通労働災害を防止しよう
「交通労働災害防止のためのガイドライン」のポイント

<http://www.mhlw.go.jp/new-info/kobetu/roudou/gyousei/anzen/130912-01.html>

- ・職場のあんぜんサイト：交通労働災害の現状と防止対策

<http://anzeninfo.mhlw.go.jp/information/kotsutaisaku1505.html>

【参考】

平成27年

月別労働災害発生状況

(休業4日以上)の死傷者数

岩手労働局

業 種		27年計	26年	増減数	増減率	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	
製造業	水産食料品	30	30	0	0.0%	2		3	5	4	1	3		3	2	6	1	
	食料品 上記以外の食料品	① 98	80	18	22.5%	13	7	10	① 12	4	6	8	9	7	11	8	3	
	繊維・衣服その他繊維製品	8	10	-2	-20.0%	1			1		2		1		1	1	1	
	木材・木製品、家具・装備品	40	45	-5	-11.1%	2	6	3	3	2	6	3	6	2	2	3	2	
	パルプ・紙、印刷・製本	4	10	-6	-60.0%	1				1	1				1			
	化学工業	13	14	-1	-7.1%		1	1	3		2	1	1		2	2		
	窯業土石製品	① 13	20	-7	-35.0%	1	3	2		1	1	2	① 1			2		
	鉄鋼業、非鉄金属	5	11	-6	-54.5%			1			2				1	1		
	金属製品	23	26	-3	-11.5%	1	3		4	2	1	2	4	1	4	1		
	一般機械器具	12	① 12	0	0.0%		2	4		2		1	1	1	1			
	電気機械器具	15	9	6	66.7%		4		2		2	2	1	4				
	輸送用機械製造	5	① 10	-5	-50.0%		1	1				1	1	1				
	電気・ガス	0	0	0														
	その他の製造業	20	23	-3	-13.0%	3	2	1	2	2	1	2	2	1	4			
小計	② 286	② 300	-14	-4.7%	24	29	26	① 32	18	25	25	① 27	20	29	24	7		
鉱業	7	① 6	1	16.7%	2		1	1							1	2		
建設業	土木工事	⑤ 85	④ 95	-10	-10.5%	4	① 10	① 5	① 5	8	① 9	4	9	① 8	9	11	3	
	建築 工事	鉄骨・鉄筋家屋	23	① 26	-3	-11.5%	1	2	1		1	3	5	3	3	2	1	1
		木造家屋	① 58	① 69	-11	-15.9%	① 4	3	3	9	10	7	5	7	1	5	2	2
		その他の建築工事	57	44	13	29.5%	2	3	6	5	9	10	10	3	3	3	1	① 2
	その他の建設	30	② 41	-11	-26.8%	1	3	3	3	1	2	2	5	2	2	4	2	
小計	⑦ 253	⑧ 275	-22	-8.0%	① 12	① 21	① 18	① 22	29	① 31	26	27	① 17	21	19	① 10		
運輸 交通業	道路貨物運送業	② 133	④ 131	2	1.5%	13	① 12	8	15	① 7	8	14	15	13	13	8	7	
	その他の運輸交通業	15	24	-9	-37.5%	5	2			1		1	2	1	1	1	1	
貨物取扱	2	2	0	0.0%		1						1						
農林業	農業	3	8	-5	-62.5%						1				1		1	
	林業	③ 53	66	-13	-19.7%	4	4	2	7	6	3	3	① 5	4	① 5	① 8	2	
畜産 水産業	畜産業	35	36	-1	-2.8%	2	3	5	3	3	2	5	4	3	2	2	1	
	水産業	18	① 14	4	28.6%	3	1	2		1		3		1	4	3		
商業	小売業	107	④ 113	-6	-5.3%	13	9	12	10	13	7	8	7	9	10	4	5	
	その他の商業	① 28	39	-11	-28.2%	① 5	2	2	1	2	4		3	1	6	1	1	
通信業	24	28	-4	-14.3%	3	4	1	1	1	3	3	3		3	1	1		
保健 衛生業	社会福祉施設	60	77	-17	-22.1%	8	7	6	8	4	3	3	3	8	3	4	3	
	その他の保健衛生業	23	18	5	27.8%	4	4		2	1	3	2	2	1	2	2		
接客 娯楽業	旅館業	16	14	2	14.3%	3	2	3	1	3	1	1	1		1			
	飲食店	30	31	-1	-3.2%	3	3	7	1	2	2		3	2	3	3	1	
	その他の接客娯楽業	① 21	13	8	61.5%	3	4	1	2	2	① 2	1	1	1	1	1	2	
その他	ビルメンテナンス業	① 30	① 35	-5	-14.3%	2	1	3		8	2	4	1	① 2	3	2	2	
	その他(上記以外の業種)	② 76	③ 116	-40	-34.5%	5	9	4	11	① 4	5	9	8	① 7	8	3	3	
合 計	⑨ 1,220	⑩ 1,346	-126	-9.4%	② 114	② 118	① 101	② 117	② 105	② 102	108	② 113	③ 90	① 116	① 87	① 49		

(注) 平成27年12月末の速報値である。 ○数字は死亡者数(内数)である。